

第3章 第2期実施計画の重点目標と取り組みの方向性

1. 第2期実施計画の目指すべき方向性

第1章・第2章で第2期実施計画を策定するにあたり、現在の中野区の現状と残された地域福祉の課題について、統計やヒアリング及びアンケート調査から抽出を行いました。

第2章で明らかになったのは、社会的孤立がさらに深刻化しており、地域活動を行っている区民も当事者である区民もそのリスクを意識しながら、活動あるいは生活を送っている現状でした。しかし、区民の意識調査からも「適度な距離感」で人とのつながりを求めているありようや、地域活動への機会があれば参加してみたいという意欲も感じられ、ヒアリング・アンケート調査からは社会的孤立をクリアできる有効で効果的な取り組みを実践している活動や今後の取り組みへの多くのヒントをいただきました。

いきいきプランの基本目標である「社会的な孤立を生まない、人と人がつながる地域づくり」の実現のためには、中野区に暮らすすべての人びとが孤立することがないように、何らかの地域活動に参加したり、「場」を共有したり、「見守り支えあい」の輪に入ったりするなど、区民一人ひとりが主体的につながりあう「新たなつながり」をつくるのが大切です。中野区は高齢者、障害者、外国人、LGBTなど様々な方が暮らす地域でもあります。このような中野区の特徴を意識した多文化共生も大きなテーマになります。

また、多くの区民が参加し、地域活動を進めるとともに、地域福祉課題の解決のためには、既存の地域団体やボランティアグループ・NPO団体等や社会福祉法人や専門職等の福祉関係機関との連携・協働はもちろんのこと、区民の生活に関連する医療機関、商店街、企業や、大学等の教育機関等の様々なジャンルの方々と一緒に取り組むことが必要です。

そこで、第2期実施計画の目指すべき方向性として、第1期実施計画の重点目標4つの要素を基本目標の一層の実現を図るため、「参加」と「多ジャンル共生」をキーワードとして進化させ、次の2つの重点目標としました。

重点目標① 「参加するほど楽しくなるまちNAKANO」

重点目標② 「多ジャンル共生でつくるまちNAKANO」

重点目標①では、中野に住む区民一人ひとり（障害や病気を抱えている人も含め）が地域に関わることで自分たちの生活に対する充実感や生きがいを持ってもらうことや地域活動に一步踏み出せない層へのアプローチも目指しています。

重点目標②では、地域の課題をみんなで（福祉分野に限らない団体や企業も含め）解決していくことや新たな活動を生み出すことを目指しています。つまり、重点目標①は第1期実施計画の重点目標であった「多様な交流の場づくり」と「幅広い層が担い手になる」につながっていて、重点目標②は、第1期実施計画の「困ったときに助け合えるまちを作る」と「解決しにくい課題にみんなで取り組む」につながっています。

この二つの重点目標を進めていくには、区民一人ひとりをつなぐことや多ジャンルの団体間をつなぐ**コーディネート**（つなげる・支援する）の役割と、日常的につながりあい、それぞれ

の得意分野で地域課題を解決する**ネットワーク**が必要です。さらに、重点目標を分かりやすくイメージしてもらうため「**MEをWEにする**」というキャッチフレーズも加えました。(14ページ概念図参照)

第1期の5年間で残された課題に取り組み、一人ひとりが活躍でき誰もが主役となる地域づくりを目指していきます。さらに、希薄化する人と人や、人と地域とのつながりを今の時代に合わせた形でつなぎ合わせていくことに取り組みます。

2. 第2期実施計画で目指すべき5年後(2023年)のあるべき姿

第2期実施計画を進めていく上で、社会の全体的な変化も捉えておく必要があります。これからの5年間で地域や地域福祉がどのように変化していくのか、その上で、5年後のあるべき姿について考えます。

これから5年間(2019年～2023年)の地域福祉を考える上でのポイント

● 2025年問題

団塊世代が75歳以上の後期高齢者に突入します。医療費や社会保障費の増大、一人暮らし高齢者や認知症高齢者の増加など、地域にとっても大きな課題となることが予測されています。その時になってからでは対応しきれない問題です。今から地域で備えていく必要があります。

● 首都直下型地震

災害時は近隣とのつながりの必要性が再認識されます。お互いに助けられる側になるかもしれないし、助ける側になるかもしれません。何とかなると思っている方も多いかもしれませんが、何かあったときにつながるのでは遅すぎます。日頃の生活から近隣同士のとつながりを作っていくことが重要です。

● 2020年東京オリンピック・パラリンピック

ボランティア活動への関心が高まり、特に若い世代が何らかの活動に参画することが期待されます。外国の方や障害者など、支援の必要な人が増えることもきっかけとなり、ボランティアも含め地域の活躍の場が広がります。

第2期実施計画で目指す5年後の中野のあるべき姿

- 様々な世代が地域の課題に関心を持ち、自分のことから地域活動に参加している。
- 多様なつながりを作り、お互いに気づき、協力しあえる地域づくりが進んでいる。
- 様々な地域団体やグループが、お互いの強みをいかして協力できる関係性を作り、地域が活性化している。

2. 第2期実施計画 重点目標 概念図

**基本理念:わたしたちがいつもいきいきと暮らすために
～社会的な孤立を生まない、人と人がつながる地域づくりを目指す～**

下記の重点目標に取り組み、
基本理念・基本目標の実現を図ります

